

平成27年度第1回中学校給食検討会会議録

- 1 日時 平成27年5月25日(月) 10時から
- 2 場所 四日市市役所9階教育委員会室
- 3 出席委員 富田与, 宇佐見靖夫, 武田麻公, 横山直子, 西山達, 小林誠
小林一也, 西尾雅紀, 松宮宏美, 上浦健治
- 4 事務局 柳川依子, 今井巧, 井原尚子, 坂下千穂, 服部美世, 萩原千津子
- 5 傍聴人 1名 取材 1名(中日新聞)

(柳川補佐)大変ご多忙の中、中学校給食検討会にご出席いただきましてまことにありがとうございます。本日は10名の委員の皆様にご出席を賜りました。それでは只今から平成27年度第1回四日市市中学校給食検討会を開催させていただきます。なおこの会議は公開会議となっておりますのでご報告いたします。傍聴の方はおひとりです。取材といたしまして中日新聞の傍聴がごございます。また、事務局では会議録を作成する都合上、録音させていただきますのでご了承いただきたいと存じます。それではまず皆様のお手元にあります資料の確認をお願いいたします。「平成27年度第1回中学校給食検討会 事項書」1ページから始まりまして最後35ページまでの資料を用意させていただきました。それでは事項書に基づき検討会を進めてまいります。よろしくをお願いいたします。1番のあいさつにあります通り、今回、教育監からご挨拶をいただきますのでよろしくお願いいたします。

(吉田教育監) みなさんおはようございます。四日市市教育委員会事務局 教育監の吉田でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はご多用の中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。本来は教育長がご挨拶をさせていただくところですが、公務のため、代わってご挨拶させていただきますことをご了承ください。四日市市は楠町との合併に伴う教育制度検討会議の答申をうけて、中学校における、育ち盛りの子どもたちにふさわしい給食、あるいは家庭の状況に対応した給食、そういうものについてあり方を家庭弁当を基本とし、民間給食業者を活用したデリバリー方式の給食として、家庭弁当との併用で実施をさせていただいているところです。少し戻って話をさせていただくならば、平成20年度に先行の5校が市内ではじめてデリバリー給食を導入いたしました。その後22年度には16校に拡大し、平成24年度に楠中学校に入っていたいただきながら、現在では全中学校で実施をさせていただいているところです。給食内容や予約方法について、毎年、生徒、保護者、教職員対象で給食のアンケートを実施させていただきながら改良を続

けてまいりました。しかし平成26年度の喫食率は22.3%、また利用率は35.8%となっておりま。より利用しやすくするためには、更なる改善が必要であると考えております。平成25年度と26年度の2年間にわたっては、中学校給食を考える懇談会として現在のデリバリー方式の給食の現状や課題についてご意見をいただきました。この懇談会中には大きく4つの事がありまして、まず1つは現在の市内の小学校の調理作業や給食時間の見学、現在四日市が活用させていただいている委託業者の見学と試食、それから同じくデリバリー方式を採用して実施している名古屋市の中学校給食の見学、また共同調理方式である東員町の中学校給食の見学などを実施してまいりまして、様々な給食方式でご意見をいただいたところでございます。今年度からは、この2年間の懇談会でいただいたご意見をもとに今後の中学校給食のあり方について検討することを目的として「中学校給食検討会」を設置しました。本日、富田教授、宇佐見副校長にもご出席いただきましたが、学識経験者の方々をはじめ、市P連の皆さん、それぞれの委員の皆様の方々の立場で活発にご意見を頂きながら、今後の中学校給食のあり方について方向性をお示ししたいと考えております。検討会のスケジュールについては、後程事務局の方から説明がありますが、本日の事項書6ページにも掲載もされております。平成28年の5月には報告書の原案をとりまとめいただく運びになろうかと思っております。教育委員会としましては、皆様からいただいたご意見を可能な限り、次期契約内容に反映し、中学校給食の更なる充実に努めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。これで冒頭のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

(柳川補佐) それでは事項書にもどりまして、「委嘱状の交付」になります。時間の関係上皆様のお手元に置かせていただきました。どうか皆様お手元にあります委嘱状をご確認いただきたいと思。よろしく願いいたします。

では、進めてまいります。3番の「委員の紹介」という事ですが、僭越ながら自己紹介とさせていただきますので、2ページの名簿に従いまして1番の富田先生からお願いいたします。

(委員自己紹介)

(柳川補佐) ご紹介いただきました委員の皆様10名でご検討していただくこととなります。どうぞよろしく願いいたします。それでは、まず、事項書の3ページ<別紙2>「四日市市中学校給食検討会設置要綱」をご覧くださいと思。設置要綱は3ページから4ページにわたっております。では、事項書4番の委員長・副委員長の選出になります。設置要綱の第5条に基づき、委員長・副委員長の選出を只今から行います。委員の方で、学識経験者2名の方にご参画いただいております。四日市大学の富田教授に委員長を、学校法人大橋学園 ユマニテク調理製菓専門学校の宇佐見副校長先生に副委員長をお引き

受けていただけたらと考えておりますが、皆様いかがでしょうか。

(委員一同) 異議なし

(柳川補佐) 皆様のご承認のもと、委員長・副委員長を選出することができました。ありがとうございました。それでは、委員長からまず、ご挨拶を一言賜りたく存じます。

(富田委員長) 委員長という非常に重い仕事を仰せつかったのですが、実は先ほど、教育監とお話をさせていただいて、課題の大きさ、問題の複雑さ、さらに事を進めていくためのスピード感、ある程度早い速度でものを進めていかざるを得ないということ、いろんなものをまとめながらそのスピード感で、果たして、うまく私で進められるのかどうか正直不安になるところではありますが、ご協力の方、お願い申し上げます。

(宇佐見副委員長) 食育の観点からも様々な課題があります。その中で四日市市らしい学校給食のあり方を皆様と一緒に考えていければと思っております。よろしく申し上げます。

(柳川補佐) 議事に入る前に、中日新聞の方から写真の撮影についてお認めいただきたいとお話がありましたので、委員長から諮っていただけると助かります。

(富田委員長) それでは1号議案ということに突然なりました。「写真の撮影について」只今の件について、ご発言のある方、いかがでしょうか。

(委員一同) 意見なし

(富田委員長) 当会として写真の撮影を認めることといたします。

(柳川補佐) それでは議事に入りますがよろしいでしょうか。先ほどお示しました設置要綱によりますと第7条で、この後は議長として選出されました富田委員長に議事進行をお願いしたいと思います。

(富田委員長) 今までで、事項書4番まで終わっております。5番議事に入ろうと思いません。始めに時間の確認ですが、11時45分をめどに話を進めていきたいと思いません。議事(1)について事務局からお願いします。

(柳川補佐) それでは検討会のスケジュールについて、ご説明申し上げます。お手元の資料の6ページをご覧くださいと思います。本検討会は設置要綱第2条にありますよう

に、四日市市の中学校給食の充実に資するため、今後の中学校給食の在り方について検討することを目的としております。本年度の予定といたしましては〈別紙3〉今回を含めて、5回程度の会議の開催を予定いたしております。初回の本日は、中学校給食に関する懇談会の概要を説明申し上げ、現行の方式の課題や改善点を事務局からご提案いたしますので、それらについてご意見をいただきたいと存じます。次回は今回のご意見を踏まえて、現行の方式の課題や改善点について、まとめていただくこととなります。なお第1回、第2回でまとめていただいた内容を現行のデリバリー方式の平成29年度以降の次期契約内容にできるだけ反映してまいりたいと考えております。3回、4回につきましてはさまざまな方式の比較検討を行うため、他市町の中学校給食の状況について教育委員会の事務局等をお招きし、お話を伺う事も予定しております。さらに第5回にはコスト面も含め、さまざまな方式の最終的な比較検討を行った結果、今年度の検討会のまとめをしていただきたいと思っております。このような日程で中学生にふさわしい昼食を議論の中心に置きながら給食の方式を考える際には現行の方式の改善と合わせてさまざまな角度から他に考える方式についても検討して頂きたいと存じます。そして最終的には委員の皆様のご討議の結果を「中学校給食検討会報告書」にまとめるため、来年度には報告書の原案の確認を行い、報告書を提出して頂きたいと存じます。この報告書は今後の中学校給食の方向についての指針とし、報告書を基に教育委員会等で検討してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様にはご多忙のおり、大変申し訳ございませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

(富田委員長) はい、ありがとうございます。最初に議長の方から2つ、3つほど確認させてください。まず当委員会の大きな目的は、設置要綱の第2条四日市市の中学校給食の充実に資するため、今後の中学校給食の在り方について検討するという点に、間違いはありませんか。

(柳川補佐) こちらが目的になっております。よろしくお願いいたします。

(富田委員長) もう1点だけ確認させてください。今の話ですと当委員会で考えてなくてはいけない事、考えていくべきことは大きく2つある。1つ目は今回、そして次回くらいまでに次の契約の更新と申しますか、契約に資するような内容をまずまとめなければならない、それが1つ目の課題である。2つ目の課題としては3回目以降、来年度まで含めてということなのでしょうけれど、将来に向けた、中長期的なというのでしょうか、可能性・方向性・在り方それについて検討、これが2つ目の課題である。その2点が当委員会に課されたというのか考えるべき課題であると考えてよろしいでしょうか。

(柳川補佐) はい、よろしくお願いいたします。

(富田委員長) ありがとうございます。スケジュールについて、何かご発言がありましたらお願いします。

(委員一同) 意見なし

(富田委員長) よろしいですか。そうしましたら、議事の(1)スケジュールについては、ご提示頂いた原案の通りで進めてまいりたいと思います。合わせて中旬・下旬とかあまり時期がはっきりしていないところがあると思うのですが、これは私の方で適当な時期で召集をかければよいという理解でよろしいですか。

(柳川補佐) また、皆様方にご照会をかけ、委員長の方にもご相談申し上げながらという事でよろしくお願ひいたします。

(富田委員長) わかりました。では、具体的にはそのように進めさせていただこうと思います。議事の(2)「中学校給食に関する懇談会」の概要について、<別紙4>7ページから10ページ、あわせて<別紙5>11ページから19ページということでございます。事務局の方からよろしくお願ひします。

(柳川補佐) 引き続きご説明申し上げます。資料の方は<別紙4>7ページから10ページ、<別紙5>11ページから19ページとなります。中学校給食に関する懇談会の概要について、事務局から簡単にご説明させていただきます。お手元の資料、<別紙5>11ページから19ページにあります通り、平成25年度及び平成26年度合わせて6回開催してまいりました。中学校給食事業の経過・現状及び懇談会の概要については、先ほどの教育監のあいさつでもふれさせていただきましたが、懇談会では皆様方のさまざまなご意見をいただき給食内容の改善に活かすように努めてまいりました。いただきましたご意見と改善内容について<別紙4>に沿って主なものをいくつかご紹介させていただきます。まず給食のメニューについてですが、委託業者へ訪問したり、会議の場を設けたりして、協議を重ね、改善をはかっております。具体的に申し上げますとメニューの工夫と小学校の人気メニュー、生徒が考えたメニューを取り入れてはどうかというご意見をいただきましたので、小学校の人気メニューであるフライビーンズやごぼうチップス、はっこう乳を取り入れたり、昨年12月には全生徒を対象にとったアンケートから食べたいメニューで人気上位のものや生徒が考えたメニューを取り入れたりしています。

次に給食のイメージについて「給食はおいしくない」というイメージが定着していて、保護者は利用したくても、子どもが嫌がる現状があるということでしたので、給食のPRが必要であるという意見を多くいただきました。昨年度は給食のPRといたしまして、例年小学校6年生を中心に中学校給食の試食を行っておりますが、メニューを子どもたちが

食べやすいメニューに統一し、子どもたちに好評だったと聞いております。また、保護者対象の試食会も前年度よりも多く実施していただきました。試食後の感想では、口コミで聞いたイメージよりもおいしいという声を多くいただきました。生徒には給食のPRチラシを作成し、配付したり配膳室にポスターを掲示したりして、PRに努めています。また、給食費の払込みが面倒だというご意見がございましたので、給食費の口座振替を開始いたしました。さらに学校現場においては、中学校で毎日検食をしている校長先生や教頭先生の意見をいち早く集約できるモニタリングシステム、教育委員会での検食などの結果も委託業者へ伝達し、協議を行い内容の改善に努めています。つきましては今後も皆様からいただいたご意見を中学校給食の内容の改善に活かして、中学校給食の充実を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、他の給食方式に関する調査研究ですが、＜別紙5＞12ページ、16ページ、18ページをご覧ください。懇談会では、他の給食方式について、視察や試食を行い、意見交流をしていただきました。まず、平成25年度には市内小学校で行っている親子調理方式の視察を行いました。中学校で行う際の視点で給食時間や残菜、施設設備面での意見が多く出されました。次に現在委託している業者を訪問し、施設と盛り付け作業の見学を行いました。主に衛生関係について意見が出されましたが、試食ではおおむね好評でした。昨年度は名古屋市と東員町の中学校を視察いたしました。名古屋市ではデリバリー方式ですが、各校にあるランチルームでは温かいメニューが提供されるなど工夫がありました。東員町は共同調理場方式で、2校ある中学校では、1校は教室で、1校は全校ランチルームで食事をしています。給食と家庭弁当の選択制で、開始当初は給食と家庭弁当が半々だったのが、現在は、ほぼ全員が給食を利用しており、給食が定着している様子がうかがえました。簡単ではございますが、以上が懇談会の概要と報告になります。

(富田委員長) ありがとうございます。確認をさせていただきます。前半部分＜別紙4＞は、議事の(3)に係わってくる内容で、＜別紙5＞の話はどちらかというと＜別紙3＞のスケジュールというならば、後半部分に係わってくる、将来の在り方に係わってくる内容という理解でよろしいか。

(柳川補佐) はい。

(富田委員長) ありがとうございます。委員の皆さん、本件でご確認いただくべきこと、ご発言がありましたらどうぞ。

(委員一同) 意見なし

(富田委員長) よろしいですね。基本的には報告ということですので。今のお話頂

いたご報告のうえに、事項書に戻って先に進めます。(3) 現行方式の課題や改善点等について、おそらく今の〈別紙4〉のお話をベースに課題や改善点についてのご提案をされるのだろうと思います。事務局からよろしく願います。

(坂下) 失礼します。先ほど説明させていただいた通り、これまで生徒、保護者、学校そして、懇談会で頂いたご意見については可能な限り反映させ、改善に努めてまいりました。しかし、34ページ〈別紙7〉のとおり、この3年間を見ても、喫食率、利用率は低下しておりまして、昨年度は喫食率22.25%、利用率35.77%と最も低い数字となりました。中学生にふさわしい給食を目指すうえで、この数字について私どもは真摯に受け止めております。どこに課題があるのかを見極めて改善していかなくてはならないというふうに考えております。そこで懇談会で頂いてきたご意見やアンケートの中で、今後解決しなければならない現行の方式の主な課題について優先順位をつけて4点にまとめてみました。35ページの〈別紙8〉をご覧ください。

まず、1点目は「デリバリー給食の負のイメージの払拭」です。このことについては懇談会でも毎回のよう話題となりました。近年はデリバリー給食が始まった当時と比べ、「ずいぶんと味が変わったね」とか「おいしくなったよ」と学校からプラスの声が聞かれるようになり、また試食会においても、子どもや保護者から「おいしい」という声を聞く事ができるようになってきました。しかし、一方ではデリバリーに対する先入観のようなものが依然あり、アンケートを見ても「おいしくないと聞いたから」の理由で利用していない生徒がいる現状があります。また「出前弁当」「宅配弁当」というようなデリバリー給食に対するイメージが影響しているかは、定かではございませんが、アンケートを見ると、保護者の「家庭弁当を持たせたいと思うから」という率は平成25年度と比べ5%程上がっている現状があります。今後は、生徒、保護者の意識を変えてもらえるよう、力を入れる必要があるというふうに考えております。

2点目の課題は「給食の提供の仕方の検討」です。これまでは、おいしいと感じてもらう給食にするために給食の内容について会議で諮ってきました。今後は給食の内容はもちろんのことなのですが、給食の提供の仕方というものに着目をして、懇談会の意見にあった食缶方式等の工夫を講じることで、生徒たちにとってより良い給食の実現が図れるのではないかと考えております。

3点目の課題は「注文等、手続きの改善」です。予約の仕方については、アンケート結果をみても随分と定着つつあることがわかってきています。しかし一方で「予約の手続きが面倒」であることや「当日予約ができない」ということへの不満の声があり、もっと利用者にとって快適な予約システムになるよう改善していかなければならないというふうに考えております。

最後に4点目の課題は「メニューの内容・種類の工夫」です。〈別紙4〉にある通り、給食内容についてはこれまで、さまざまな改善を講じてきています。引き続き、検食の意

見やアンケート等を手掛かりにしながらより良い内容になるよう、委託業者と協議をはかり努めてまいりたいと考えております。事務局提案は以上です。

(富田委員長) ありがとうございます。いくつか教えてください。喫食率と利用率というのは何が違うのですか。

(井原) 資料34ページの<別紙7>「中学校給食の現状」をご覧ください。下の方にグラフがついてありますが、その横に括弧書きで書いてあります、これが喫食率で「全員が給食を食べた場合の食数に対する実際に食べた食数の割合」ということです。これは給食実施日にもし全校が食べたとしたらという数を母数に、そして実際注文された数をもとに計算をしております。利用率は「一定期間のうちに全員の中で1回以上給食を利用した人数の割合」ということです。今のところ、喫食率・利用率は表にあります通り、1か月ごとにデータをとってありまして、平均の欄は年度ごとになりますが、この期間のうちに1回でも食べたら1人としてカウントして利用率を出しています。

(富田委員長) ありがとうございます。まずは今のお話全体について、お伺いしておくべきこと、内容を確認しておくべきことがありましたらご発言ください。

(委員一同) 発言なし

(富田委員長) 私の方で、もう1つお聞きしたいところがあるのですが、35ページのところで、「給食提供の仕方」、懇談会の意見より「食缶方式」というのがありますが、この「食缶方式」というのはデリバリーでも食缶方式ができるという事なのですか、それともデリバリーとは違う、センター方式なり親子方式なりというような意味合いがあるのでしょうか。この食缶方式の意味合いを教えてください。

(井原) 「食缶方式」というのは、給食の自校方式、親子方式、センター方式とは別で、何で学校に届けるかという意味合いで「食缶方式」とここではいわせていただいておりますので、デリバリー方式でも食缶で教室まで届けて、そこで配膳するという形はできるかなと考えております。

(富田委員長) なるほど、デリバリーの中でということですね。あくまで今日ご提示いただいた中身はデリバリーを前提とした課題と改善点のご提案というように考えてよろしいですか。

(井原) はい、そうです。

(富田委員長) 他の委員の方、今の時点で確認したいことはございませんか。

(武田委員) 平成25年から参加させていただいて、デリバリーの喫食率、利用率がなかなか上がらないということで市P連の方でも、簡単なお知らせとかしているのですが、ついこの間、北部ブロックの保護者の集まりの時に、こういうことなのだと今更ながら思いました。私たちは、見学もして、こういう事に係わっているのも、すべてというかデリバリーを導入してから定着してきて良いものになっているという事に囚われすぎていて、ちょっと盲点といいますか、今度、新しく入ってくる世代と言いますか、その人たちにデリバリーの根本的な説明というのがなされていないということに気が付きました。というのはなぜかといいますと、この間、そもそも「何でその方式にしたのか」、「今のオーケーズデリカにした理由は何か」といったご質問をいただいたことがありました。最初導入した時は、一生懸命私たちも説明をしていたのですが、その保護者はいない訳なのですよね、子どもが卒業してしまいますから。そうすると次の上の子の時に知っている保護者は、「最近では定着している、こんなだよ」という説明はしてくれても、なかなかそれ以上のものにはならず、小学校でも実際、次から食べますよということで喫食はしてくれるのだけれど、なかなか保護者の浸透が低いというのは、そもそもこの制度が定着しつつあるという事に慣れてしまっていたことにも問題点があるのかなということを感じます。年度が変わって、とくに新しい役員からそういうお声をいただきまして、市P連としても懇談会から検討会をするということであれば、そもそもなぜデリバリーなのか、実際に市がいくら払って、いくらになっているのかということはきちんと説明をしてもらっているのだろうが浸透されていないので、もっとすべきではないかという厳しいご意見を頂いております。

(富田委員長) ありがとうございます。さっそく議論に入らせていただきましたが、そのまま議論の方をすすめてさせていただきます。検討を進めていくにあたって、おそらく2つのことが必要になってくるのだろうと思っています。1つはご提示いただいた4つの大きな課題、35ページであります。この課題が優先順位、プライオリティをつけて提示して頂いている、については当検討会としてこの順位で重要性があるので、検討の順番はこの順番で進めていいのかということが1点、もう1点はそれぞれの課題について、最終的に具体的な方策みたいなものを急ぎの話ですが、次回までには取りまとめをとという話でありますのでまずは、検討順位がこれでいいのか、それからそのうち具体的なものの議論に進んでいく、話の進め方としてそれでよろしいでしょうか。プライオリティはこの順番で話を進めさせていただいてよろしいですか。

(委員一同) 意見なし

(富田委員長) 具体的な施策の提案へ移るにあたっては、それぞれ組織なり、学校なり代

表されておいでになっている皆さんが多いだらうと思いますので、こんなふうに進めさせてください。今日の時点で、どんなことを次回までに検討しなければいけないのかという方向をある程度あぶりだして、その上で一旦お持ち帰りいただいて、次回までに紙なり何なりの形で事務局の方にご提出いただいて、事務局でそれを取りまとめていただいた上で、次回改めて議論していくという作り方でよろしいでしょうか。

(委員一同) 意義なし

(富田委員長) 事務局はそれでよろしいか。

(柳川) はい。

(富田委員長) では、先ほど武田委員がご発言頂いた「デリバリー給食の負のイメージの払拭」あるいはPRといった部分の課題から検討を進めていくことにしたいと思います。先ほど武田委員がご発言頂いたのはおそらくこの課題に関わる場所かと思われるのですが、ご発言の主旨はこう理解してよろしいですか。

(武田委員) はい。

(富田委員長) まずは、PRそのものが足りないだろう。もう1つはデリバリー給食そのものが世代を超えて中身が受け継がれていかない。新しくきた人は当たり前のもののように周りは思っているのだが、その中身について十分理解できていない。その辺のところ、喫食率が上がらないことにつながっていくのではないかということ、ご発言の主旨はそういうところでよろしかったでしょうか。今の点も含めまして、他の論点があったらお話いただければ助かります。西尾先生、現場ではどうですか。

(西尾委員) PRと意味においては、うちの学校では、昼食の時に放送で、メニューの説明もして、今日はこんな給食ですよと読んでもらっているんで、そういう意味においては、以前よりはデリバリーのPRを中学校はしているのではというイメージはあります。

(富田委員長) 生徒に対するPRはしているということですね。中学校では、保護者に対するPRというのはどうでしょうか。

(西山委員) うちの場合は、小学校6年生の保護者説明会の時に少し触れさせてもらっておりますが、もっと触れたい課題もたくさんあるので、もちろん外さないようにはしておりますが、たくさんあるので少し薄められて保護者の方には伝わっているかもわかりませ

んが、基本的にまず登録していただいて、4500円を一旦振り込むという形はとってくださいますよというお願いはさせてもらっているんで、今年の1年生を見ても90%以上の方が登録をされています。考え方によっては「うちは絶対家庭弁当にしたいから」という方も当然おみえですので、そういう方に無理して登録をお願いしません。後は、ホームページには時々、「こんな風に改善されています」とか「こんな工夫で今回こんなメニューです」「今現在喫食率はこれくらいです」とお知らせしています。

(富田委員長) 武田委員のお話は、制度そのものの説明、なぜこの制度がこうなっているのかという説明が欲しいということですね。

(武田委員) 保護者に対する説明ですね。北部ブロック会で、参考までにですが、35ページの1にあります、「出前弁当」「宅配弁当」という意味でとらえている方が、実際どれくらいいるかということ、アンケートで挙手をいただきました。その時に、そもそもデリバリー給食自体をわからない人は挙げないのですが、「給食だと思う」と挙げられた方は、利用している人で、利用している人は「給食」ととらえている。「宅配弁当」「出前弁当」に挙げられた方は、利用していない、登録はしているけれど利用していないという方が多かったというのがありました。そこに実は深い意味があるのかなというふうにも思いました。

(富田委員長) 今のお話は食べたことがないから、中身がよくわからないという意味合いも含まれているのでしょうか。

(武田委員) そうです。風評だけで、最初の6年生の時の試食で、たまたま食べたメニューがまずかったとか、お友達が食べているのを見て「まずいけど僕は仕方がないから食べているんだ」とかいうのを聞いて、お母さんが作ってくれるから弁当でいいやというようなその差はあるかと。

(富田委員長) 横山委員は今年から市P連で中学校の保護者の方ですが、今の武田委員の意見と同じようなご意見をお持ちでしょうか。

(横山委員) 私は子どもの昼食はデリバリーを頼むようにしていますが、頼まれてない方に話を聞くとお母さんは頼みたいのだけど、子どもが給食に虫が入っていた、それはもう解決してもらったのでしょうが、1回あったからもう頼まないという話を聞きました。1回だけであっても、そういったことで負のイメージがついてしまうということを感じました。

(富田委員長) 話を進める中で同じような話ができるかもしれないのですが、今の虫の件というのは何件か常にあるのでしょうか。

(井原) 異物混入は虫だとか髪の毛だとか、年に何十件もありませんが、たまにはあります。

(富田委員長) それについては、その都度ご対応頂いているのですか。

(井原) そうです。業者の方でもその都度、入っていた異物について、いろいろ原因を探ってその後の防止策を講じていただいています。

(富田委員長) 今の論点ですがイメージの問題だろうと思うのですが、学校の方ではそうした事案が起きた時にこういう改善がなされましたよということはそれぞれ保護者の方には通知はされるものなのですか。教えてください。

(西山委員) うちの学校では、該当の保護者には通知しているが、こんなことがあって、こんなふうに改善しましたとは全体には伝えていません。

(富田委員長) 周知するような措置はとらないということですか。それは一般的なものですか。

(上浦委員) 四日市市としては、異物混入の場合、主に健康被害のおそれがある場合とか、集団規模の場合などについて報道発表をするという基準がありまして、重大なものについては公表となることがあります。軽微な場合については公表の対象となっていないという事です。

(富田委員長) 横山委員のご発言はそうした小さな事故がひよっとしたら負のイメージの広がる原因のひとつになっているのではないかとということよろしいでしょうか。

(横山委員) そうです。

(富田委員長) 他に何か論点がありましたらどうぞ。デリバリー方式のやり方、業者の選定等含めて、何で今こうなっているのかという経緯についての説明・理解が保護者の側に十分なされていないのではないかとということが1つ、もう1つはそれと合わせて、食べたこともないのにイメージだけでものを語ってしまう、よくわからないから、食べたこともないのにおいしくないという人がいるという論点が1つ。異物混入事故が負のイメージに

つながっている、きっかけの1つになっているのではないかという論点が1つ。他にいかがでしょうか。

(上浦委員) 確かに武田委員が仰ったように、保護者の方へいつ、どういう形で何を説明するかという辺りを、きちんと整理していく必要があると思いました。西山先生が仰って頂いたように中学校に入学する時の説明会の中でできればとか、小学校で保護者の試食会をしていただくこともあるのですが、そこで食べていただいた折に、もう少し丁寧に話をしていただくようお願いをしていきたい。ある小学校で昨年試食会をしていただいた時にかなり詳しくお話をしていただいたところ、保護者の方から「よくわかった」というお声をいただいたと聞いております。説明会の折に伝えるといっても中学校の説明会は、西山先生が仰ったようにいろんなことを伝えなくてはなりませんので、そこにどういう形で入れ込んでいただくとか、その辺、少しこちらも検討して説明をしていかないとわかったつもりで話を聞いていただいているという前提の話になっていると、確かにその辺を改善する必要があるのではないかと聞かせていただきました。

(富田委員長) 今の話は、そもそも保護者に対する説明の仕方をもう少し改善する必要があると考えられるという事でしたが、もう1つの論点は試食会のような機会を増やしてやったらどうかというふうに思っていると考えてよろしいでしょうか。

(上浦委員) たとえば「出前弁当」であるというようなことには、給食に関しては、市の栄養士も係わって、メニューを作り、栄養も考えてしていると、例えばそういうこと1つでもお話させていただくだけでも違ってくるのかと。栄養面も気を付けているということをお話させていただくだけでも大分違うのではないかということをお話先ほどのご意見を聞かせていただいて思いました。

(富田委員長) さっそく具体的な話が多少でてきておりますが、参考までに教えてください。今のお話ですと小学校6年生の時の試食会というのは、今、市内全部の小学校で実施している訳ではないのですか。

(井原) 生徒は全校ですが、保護者は希望がある学校だけです。小学校で行う場合と中学校で行う場合がありますが、昨年度は約20校で実施されました。

(富田委員長) 場合によっては、やり方を変えていく、もう少し回数を増やすなり、保護者が実際に食べられる機会を増やすとか、さっそく具体的な対応策についての話ができましたが、先生方に1つ伺いしてもよろしいか。中学校で先生方のお昼というのは、デリバリーがあるときにはデリバリーをお食べになるのですか、あるいはお弁当をお食べに

なるのでしょうか、他の方法なのでしょうか、非難するとかそういう意図はまったく無く、参考までに教えていただきたいです。

(武田委員) 校長先生と教頭先生は、A 献立、B 献立があるので、それぞれが必ずどちらかを食べて、検食ということで子どもより先にチェックしていただいているので、両方食べていただいているとお聞きしています。

(富田委員長) なるほど。

(武田委員) 職員の先生方は、子どもと一緒に食べていますが、弁当かデリバリーかどちらかということです。保護者はそういったことも知らなくて、試食会で、自分が参加している学校では、先生がきちんと検食して、安心できるものというのを確認して子どもたちに食べてもらっていますということを説明しているのですが、なかなか自分のところの学校だけになってしまうので、そこまで浸透してないのかと。

(富田委員長) なるほど、先生方がどう係わってらっしゃるのかという事もひょっとしたら保護者の方は知らないのかも知れないということですね。

(武田委員) 教育委員会の方も毎日食べていただいているのですが、それもご存じない方が多いのではないのでしょうか。

(富田委員長) もし私が、試食がしたいと申し出たらすぐに試食はさせていただけるものなのでしょうか。事務局、教えてください。次のこの委員会で食べることは可能でしょうか。

(事務局) それは可能です。

(富田委員長) 皆さん食べたことがある方ばかりでしたか。

(武田委員) 結構何回か食べさせていただいてますが、おいしいですよ。バランスもよく考えていただいています。

(富田委員長) そうですか。ぜひそんな機会をいただきたいと思います。たとえば、デリバリー給食というものが、こんなものだということを、中学校に直接係わらない多くの市民の皆さんはどうとらえているか。時々ニュースやらで話題に上って「デリバリー給食」というのがでてくる。中学校の子どもの保護者じゃないその他の市民のイメージというの

はどんなものでしょうか。PRといったときに、場合によっては、他の市民の方も巻き込んでいくような方法というのもありえるのではないかと思いますのですが、正直なところ、私自身も、娘が中学1年生なのですが、かみさんは試食会に参加してデリバリーを食べていて、話は聞いているが、私は実際食べたことがないものですから。その辺のところもPRにつながっていくのではないかという気がするのですが。課題1の論点整理です。

(武田委員) やはり、全体的な保護者の方のイメージとしては、今から私がいう意見は、これからの将来性とか方向性という意味でとらえていただけるといいですが、現状は今あるものを何とか改善してということなのですが、鈴鹿市が給食になったということを受けまして、保護者の方からは、「何で四日市はデリバリー給食なんだ」というご意見が根底にはずっとあるようで、やはり保護者の方が望まれるのは、小学校で行われているような給食が中学校でもあるといいのにといいのという声がちらほら聞かれます。それは、今後の事なのですが、だからよけいに、今私たちがどれだけ改善されて良いものなのですよとお伝えしてもなかなか耳を傾けていただけないということが根底にあるのではと感じます。

(富田委員長) わかりました。課題1ばかりやっても他が進まない可能性がありますので、とりあえず、これくらいにしようと思うのですが、他にご発言いただくことはありますか。

(上浦委員) 鈴鹿市の話がでましたが、デリバリーに関しては、ご存じのように、四日市市が楠町との合併の時に「合併に伴う教育制度検討会議」というのがございまして、いろんな仕組みをすり合わせていく中で、そこで検討、協議頂いて、その答申に基づいて導入されたということで、鈴鹿は合併がなかったもので、またちょっと状況が違う、そういう背景もあることをお知りおきいただけたらと思います。

(富田委員長) そういう背景もあるということですね、ありがとうございます。それでは課題2に移らせてください。「給食の提供の仕方の検討」について、この点で何か論点、ご発言がありましたらどうぞ。食事の提供という意味では、宇佐見先生、何か食育の観点でどうでしょう。

(宇佐見副委員長) 今できることは、子どもたちが食に関して、興味とか関心が持てるようにしていくというようなことが大切なことではないかと思っていて、そのための取組が必要になってくるかと思えます。

(富田委員長) まずは、何が可能かということになってくるのだと思うのですが、ここで1番最初に、「残菜の無駄を無くすことや温かいものを届けるとなると、食缶方式がいいの

ではないか」という事務局からの提案がなされていますが、先ほどから伺っている「食缶方式」は実現可能性としては難しいことなのでしょう、それともやろうと思えばできない話ではないというふうに捉えたらよろしいでしょうか。

(井原)「食缶方式」については、今あまり例がありませんので、いろいろ課題となることも考えられると思います。まずは、今のデリバリー方式ですとすると、委託業者の方で食器や食缶などを準備していただくとか、その保管場所、どこで洗浄するかとか、そのラインの準備も必要になってくるかと思えます。学校の方でも、教室で配膳する時間だとか衛生管理だとかその辺の指導もお世話になってくるかと思えますので、いろいろ課題はあるかと思ひまして、食缶もすべてのおかずを食缶に入れたものを運んでするのか、今はランチボックスにおかずもご飯も汁物もそれぞれ分けてありますけれども、例えばその一部、汁物だけ食缶にして教室で配膳したらどうかとか、ご飯も量が多いとかそういうご意見もありますので、ご飯はお茶碗によそったらどうなのかとか、「食缶方式」と一言でいいましてもいろんなやり方が考えられるかと思ひます。

(富田委員長) ありがとうございます。小林一也先生にお聞きしますが、小学校で給食を配る時、給食当番など子どもたちを動かして、先生方もそこに対応されながら、今いった問題とか出てくるとは思うのですが、仮に中学校でデリバリーと併用する形で汁物ですとかそうしたものを食缶方式にした場合、現場での対応は難しいのでしょうか。

(小林一也委員) 私は、今年から参加だったので、資料を事前にいただいていたので、ここで議論されていることが、すでにこの2年間のいろんな懇談会の中でも議論としては、かなり出ていた点が改めて今日ここで確認されているように思いながら聞かせていただいています。この食缶方式等についても、やはり中学校と小学校の間に日課表の違いがあって、小学校は給食時間が大体多くの学校が40分くらいをとっていると思います。そのうちの前半15分から20分は配膳の時間という形で、実際に食べている時間が20分くらいです。そうすると中学校の方が給食時間がだいたい20分くらいだと思ひますが、それはいわゆる食事をする時間ということでの設定がなされているということからいくと、食缶での配膳が1つ、2つであっても増えれば、それだけ中学校の日課を変えなければならないという問題が出てくる。現行のデリバリー給食というものについては、かなり議論は尽くされてきて、改善すべき点もかなり改善を重ねてきていると思ひて、私は今日来ております。課題の整理の仕方のところで、アンケートの結果というのを載せていただいておりますが、例えば、今の課題2のところでも、生徒が利用しない理由として、「量が多いから」、保護者の方が「子どもにとって量が多すぎるから」と言っているというので、そこから調整が出来る「食缶方式」小学校のようなのがいいじゃないかというような議論になられたのかなと思ひますが、小学校の子どもたちが、小学校の給食について量が多いと思

っている子がいないかというののですよ。だから、アンケートの結果も全てそうだと思うのですが、例えば「おいしくないから利用しない」というのも、小学校の給食も「おいしくない」と思っている子はいるんですよ。正直言って。このパーセントが小学校と中学校とすごく違うのかどうかということも検討しておかないといかんのだろうなというようにことを思いながら、この資料を見させていただいています。

小学校の側からいくと、さっきの課題1のところでもそうなのですが、PR どうするかというところで、どきどきしていたのは、小学校でもっとやれとなっていくのではないかと。というのは、導入された時に比べて、小学校の事務負担は増えています。この手続きの説明もそうですし、子どもたちに試食会をしなくてはいけない手続もそうです。去年は人気メニューを試食会にあてたんですね。それよりも小学校給食と明らかに違うようなメニューを食べてもらった方が、こういうものだということがわかるのではないかと思ったりしました。その日は、校長として試食もしますが、いつも検食するとノートに書かなくてはいけないのですが、僕は正直言って、器だと思っていて、見た目がとてもおいしく感じない。食材の見た目じゃなくて、器の見た目が、小学校は器の内側は白なんですね。食べ物が映えて見える、おいしく見える。ところが今、デリバリーに使っている器は、私は、最初からずっと言っているのですが、見た目、やっぱり人間って茶色を基本とした器なんて日常生活で使いませんよね。デリバリーの器を内側だけでも白っぽく塗ればいいのと思うのです。こういう単純なところが理由になっているのではないかと思うところもあるのです。だから、深く検討して頂いているのですが、もっと単純な、私はその立場だと思っているので、ほんとに単純なところからではないかと思うのです。例えば、試食するかしないかですが、小学校の給食も入学前に保護者が試食することなんてありません。入学後試食する訳です。小学校の給食については、試食がないから弁当持たせたいとかいう親はいないですよ。それはなにかというご自身の経験ですよ。ご自身が子どもの頃から小学校は給食だったので小学校の給食についてのイメージが出来上がっているから、何も保護者は試食会をしてほしいとは言わないし、その必要も無い。入ってから試食会をしてもらいますが、それはやっぱり食教育なんですね。食教育の一端を保護者の方にも伝えたいという、そういう思いから給食試食会というのを小学校はしていますので、そういうところは、デリバリー給食っていうものが、そもそも食教育ではないというふうに私には見えています。その違いみたいなところをもう少し丁寧に小学校の給食との違いを見比べながら、方向性というのは出していけないといけなかなということはずっと思っていました。

先日、北部のPTAの時に手を挙げていただいた話をしていましたが、私は後ろの方に座っていたのですが、見事だと思ったのは、「宅配弁当だと思いますか」というので手を挙げたのは、小学校の保護者でしたね。「給食だと思います」という方に手を挙げたのは、中学校の管理職、保護者、そして小学校の管理職でした。ものすごく明らかに情報が知らされていないということがあつての結果だと思っています。私の学校の保護者の方は、この

後検討されていくであろうシステムというか、申し込まなければならないというのが、そもそもそれがめんどくさいと言っていました。最初の教育監の話にもありましたが、「家庭弁当を基本とするデリバリー」なので「併用」ということがそもそもあるので、何でこんなに躍起になって喫食率を上げなければならないのかと、要はデリバリーを維持するために、喫食率がさがると民間委託ができないということ、結局はそういうふうに見えるので、一生懸命議論をして去年まで2年間かけて、いろんな改善点を出していただいているのですが、最初の壁ってそこにあるのではないかなと思えて仕方がない。小学校の校長の立場での意見です。

(富田委員長) ありがとうございます。今いただいた多くの部分、是非、小林先生申し訳ないですが、この委員会の後半部分の見通し、これからどういう方向で考えていったらいいのか、その辺のところで改めてお話ください。長い目で見ると、正におっしゃる論点がたくさん出てくるかと思えます。今、ご発言いただいた中で、直接、課題2に係わってくるのではないかなと思うのですが、食缶方式と言っても、色や形の方にむしろ課題があるのではないかなという指摘だと思うのですが。この点についてはいかがでしょうか。食缶の色とかその点のところまでの配慮は可能なものなんでしょうか。松宮先生、やはり器の色というのは、食べる側としてはずいぶん違うものなんでしょうか。

(松宮委員) そうです。違ってきます。

(富田委員長) 他にいかがでしょうか。色の件ですが、食缶でなく、弁当箱の方でしたか。

(小林一也委員) 給食だよりにカラーで載せてもらっていますが、これを見ていただくとわかっただけだと思います。申し訳ないですが小学校はありがたいなと思ってしまう。

(井原) ランチボックスの色の件もご意見を頂いていますので、業者とも協議を進めているところなのですが、たくさんの準備が要りますので、ランチボックスの色、形の変更も含めて検討したいと思っております。

(富田委員長) 器の色とか形は、この色なら良い、美味しく見える、この形なら良いと特定できるものなんでしょうか。

(宇佐見副委員長) 小林先生が言われたように、基本白であれば、食材の色というものが映えますので、そういったことで四季のことも表現できるのではないのでしょうか。弁当箱になっているので、食育という面ではやはり弁当という認識になってしまう。せつか

く「宅配弁当」ではないのに、実際、内容は教育委員会が携わって考えている給食なのに、給食に見えないというところがある。そこが課題になってくるので、PRが必要になってくるということではないでしょうか。

(富田委員長) 課題1に係わってくるのですね。1つはランチボックスの形状・色の工夫という論点が出てきましたね。それについては具体的な方策も考えうるだろうと。

(上浦委員) 食缶方式というのは、ランチボックスの改善というのはすぐにはなかなか難しいので、たとえば、ご飯を食缶でまとめて持ってきて、お茶碗のような器に盛るとか、今は、味噌汁をふたの付いた保温カップで持ってきているが、それを食缶で運んで、学校でよそって味噌汁を付けるとかいうことです。お茶碗とおかずと味噌汁が並ぶことで、見た目も変わるというようなことを言われているのではないかと思います。そうすると先ほど言われたように配膳の問題が出てきます。ご飯とみそ汁だけを配膳するとしても、少しはそれでも時間がかかるとか、指導の問題も出てくるのかなと思います。

(富田委員長) 小林先生は、先ほどからうなずかれています。今の配膳の問題を含めて現場ではいかがでしょうか。

(小林誠委員) 私は、校長会全体の意見ではなく、あくまで個人で感じているところを言わせていただきます。自分は平成20年の施行からずっと8年間食べている。始まった当時は、やっぱり、今日もはずれか、と見た目、味も含め、非常にいかななものかと思っていたが、今は本当に、味については改善されましたし、私はデリバリーは好きです。温かくないということは確かにあるが、毎日、いろいろ種類も変わっておいしいと思うのですが、残念ながら作られたイメージはなかなか変わっていない。味も大きく変わったのに、大まかなイメージは全く変わっていない。器もまったく同じです。見た目は変わっていない。4種類くらいあるので、どれが主菜か分からない、例えばとんかつと書いてあるのに、とんかつは2つしか入っていないくて、他のものがたくさんある。インパクトが非常に弱い。変わったというインパクトはない。味は確かに変わっているけれど、容器は変わらず。見た目はまあまあ変わったけれども、もちろん栄養面で考えなくてはならないとは思いますが、毎日の栄養をきちんと摂取するとか、良いのか悪いのか分かりませんが、1週間、10日トータルでこうなるという形を取り入れて、変えるのであればインパクトのあるような変え方をしないと、ちょいちょい変えるのではなく、器も変える、中身も変えるというくらいにしないと大きな改善は望めないと個人的には感じる。ただ、アンケートを見せていただきますと、子どもたちは、家庭弁当を望んでいる。中学校では、家庭で作ってくれる、好きなものを入れてもらえるので、すごく楽しみにしている。一方で、小学校と同様の給食を望んでいるのはわずか7%、親は40%くらいが小学校方式を望んでいるが、このア

ンケートが物語っているように、子どもはやっぱり弁当を楽しみにしているのだなど。先ほどの話と同じなのですが、家庭弁当とデリバリー併用という点を考えれば、初めからデリバリーの喫食率を50%にするのはかなり難しい訳で、もちろん税金を一定、投入している訳ですから、当然喫食率というのは大事だとは思いますが、子どもにとって何がいいとか、むしろ満足度は高いのかなと、選ばれていいよという、むしろ実際は評価すべきであって、なにか知らないが、喫食率を上げることばかりに終始していますが、根本的なところ、満足度を忘れてきているような気がします。

(富田委員長) 今お話しいただいたところ、申し訳ありませんが、後半の中長期的な問題のところを改めて、喫食率の問題だけなのか、それともそれ以上の根本的な問題があって、そこをどう解決していくのか。今はまさに課題2のところの特化して言わせていただくと、デリバリーの一部を食缶方式に変えて、中学校でそれに対応していただきとなったとき、先ほど話にでていた20分くらいの間に配る、場合によっては回収する、先生方のどなたかが見ている必要があるのか、ないのかわかりませんが、係わらざるを得なくなるのか。現実問題として、中学校で実現可能なものなののでしょうか。

(小林一也委員) 配膳に小学校で20分かかっているということですが、中学校でもそれぐらいかかるかなと思います。指導が場合によって必要なことも起こってきますよね。きちんと動いてくれる子ども達だけとは限りませんし、その間20分、家庭弁当を持ってきた子が待たされて、いかがなものかなと思います。みんながそれこそデリバリーの方向に流れていって、これはおいしいよという事であれば、変わっていくでしょうが、当初は混乱が起きるだろうなと思います。食缶方式だと、混乱なり課題がでるだろうと思います。

(富田委員長) 大きな混乱は時間の問題だけでしょうか。他にも何かありますか。

(西山委員) 前任校において、ご飯が多いとか少ないとか、一応まず確認しますと、足りないときのために余分にご飯だけ入っているのですが、確認したら、3年生はやや余る、2年生は足りない、欲しいという事を聞いて、昨年から、全体的にご飯そのものを少なめにさせていただいて、おかわりが出来るように変えてもらっていて、たくさん余らせてもつたないというようなことは改善をされているが、そのことをもう少し、3年ぐらい前に試しにやってほしいということで、おかわり用のご飯を缶に入れてきて、おかわりの分だけよそってみるという方法でどうでしょうということで、前任校で試させてもらったことがありました。先生方の評判はというと、そのために、もしやるなら本当でしたら、マスクもさせてはダメではない。それをせず、今までの感じでやっていると、中には咳をしながらよそっている子もいる。できたらあの方法はあまり嬉しくないということでした。量だけ見たら、調整はできて、おかわりの分を自分で取る訳ですから、倍もいらぬとか、

半分ぐらいならほしいとか言う子もいるけれど、仲のいい子は半分づつしようかということもしているが、一部を食缶方式でするとやっていくとなると、やる以上は衛生面もきちんと考えてやっていかないといけないので時間も含めて、難しいかなと感じる。その時に言わせてもらったのは半分ぐらいの容器におかわり用を入れてもらって、クラスでとれるような形にしてもらうとかいう方法はできないかとお返事させていただいた。色は大昔から黄色とピンクで、全然、食材が映えませんか。なかなか変えていただけないのはやはり予算の面で無理なのだろうなと思いました。

(富田委員長) ありがとうございます。食缶方式がいいのではないかという点については、いろいろ問題点があるのはあるようですね。これについての改善の方法があるのかは次の議論になっていくのでしょうか。もう一つは、ここに出されていなかった問題として、ランチボックスの色・形状等について工夫を加えることで、より改善されていくのではないかという可能性ということでもあります。ちょっと急がせてください。課題3に移らせてください。「注文等、手続きの改善」が必要だということですが、これは先ほど武田さんか横山さんが言っていたでしょうか。

(武田委員) やはり、最初に利用登録の案内がくるのですが、そのタイミングで利用の登録をしないと、後で改めて登録しようと言う親御さんはなかなか居ないようで、まあいいか面倒くさいしとなっていたり、私自身もデリバリーを注文していますが、予約が面倒だと感じます。予約のタイミングが1日ずれたとかあと10分で終わってしまうということもあったのですが、確かに鈴鹿市の当日予約は魅力的だなと思いながら、あくまでも弁当を主体ということであればどうしても事前じゃないと難しいのかなということも感じます。注文するのが面倒という保護者が多い。兄弟2人いるのですが、ログインする時もパスワードを1人分しか覚えてくれないので、もう1人はパソコンや携帯で、パスワードを入れ直すというのが億劫です。

(富田委員長) 今の論点は、事前に予約するのであれば、当日でも予約できるようにしてほしいというのが1点。もう1つは登録をする時の仕方というか、予約のパスワード等のやり方の改善があるのではないかということが2点目、この2つが問題であるのではないかと思います。上浦委員にお尋ねしますが、当日予約というのは難しいのですか。

(上浦委員) 昨年、名古屋に見に行きましたが、3日前でぎりぎり、1週間前までということでした。四日市は予備食があるので、それに対応してもらっている学校があります。給食をひっくり返した時に使うもの、予備食として10食用意してあります。

(富田委員長) 10食の予備食も、生徒が望むメニューが残っているとは限らないわけで

すか。

(上浦委員) まったく同じものです。みんなが欲しいとかになると数が限られているので対応できない。

(富田委員長) いくつかなら対応できるということですね。インターネットでの登録の方法について、もっと簡便にすることはできないのか。

(武田委員) 子どもが注文したい給食をチェックして、学校で申込みのマークシートを出す方法があるが、やはり中学校になると、わざわざ職員室にマークシートをとりに行行って書いて出すというのは、子どもは子どもで時間がないらしく、なかなか日課が慌ただしいので。そうすると家でゆっくり献立表を見て、インターネットで選ぶのが一番簡単なのかなとは思いますが、後は利用するためには、事前に4500円を振り込んで置かないと予約ができないという事もあって、意気込んで利用する保護者じゃないとそこまで進んで行かないのかなという感じです。ただ、当日注文というのは四日市市はパン注文でそれに対応しているので仕方ないかなと思います。

(富田委員長) 全部の学校でパン注文は利用できるのですか。

(西尾委員) 一部の学校でしています。

(富田委員長) 事前の予約注文、当日の予約について、今までのところで、横山委員いかがでしょうか。

(横山委員) 私もデリバリーを注文させていますが、頼んだつもりで、お金が入っていないというトラブルがあって、子どもにお金を持たせてないので、パン注文もできないので。予備食を使って、給食の残金があったのでそこから引き落としますというような報告ももらって食べさせてもらったことがある。お金を入れるのが遅いとシステムに反映も遅いらしくて、1週間先とか、すぐに注文できないので。

(武田委員) 昨年から引き落としを導入していただいたので、私は引き落としを利用して。6000円で、使わなければ、最後にまとめて返金があるので、使わなければ積立になるし、へそくりになると言っている人もいます。20日使わない時もあるので、本当は引き落としの方がいい、ただ引き落としの浸透率が悪いと思う。

(富田委員長) 手続、支払い等の問題が出てくる訳ですが、時々話題に出てきている、当

日、予備食を使い切ることはあるのか。

(西尾委員) 使い切ることはまずない。実際にはかなり余っています。それまでに生徒が確実に申し込むか、申し込むのが怪しい子もいるが、担任が指導してちゃんと自分で申し込むようにしている。先ほどの話にもあったが、もし食育どうのこうのいうのであれば、自分の食に係わることなので、ちゃんと子どもが注文できるようにしないとだめですね。それを面倒くさがるということは、そもそもどうなんだという話になると思います。インターネットの予約は、私もしているが楽です。自分の分は楽にできますが、人の分となると最初のパスワードとログインがあるので、その部分で入力が面倒くさいというのはわかるが、それだけクリアすれば、あとは比較的楽です。ただそこに行きつくまでに、その説明のプリントが何枚かあるのですが、あれが増えれば増えるほど嫌がるのですよ。インターネットの注文の説明は本当にごく簡素でいいと思う。わかりやすい説明があだになっている部分があると思う。そこはまだ改善できるのではないかと思います。

(富田委員長) 説明は私も拝見したのですが、あれはなくてもできます。そこまで言わなくてもという部分が、かなりあるのは間違いないですね。パスワードとログインIDだけでいい。1つはインターネット手続に関する説明の工夫が考えられるのではないかという論点が出てくるだろうと思います。今のところというと、子どもが注文することができる、親が注文することができる、学校でもできる、家庭でもできるという2段階構えであることは間違いないだろうと思います。予備食っていうのは、当日対応には使いようがないですか。

(西山委員) 予備食は、ひっくり返した時用が本来だと思うのですが、だいたいひっくり返す率は、350人くらいの学校ですと1年に1回ぐらい、250人くらいの学校で、先週ありましたが、2年とちょっとで数回です。たくさんですと、隣の学校から集めて対応するという事になっていますが、めったにないと考えた時に、結局は注文忘れとか、注文忘れでも朝からパンを頼めるのですが、一番多いのは、食べる時になって注文するのを忘れていたという子がいるのですね。そういう時でもうちの場合は、裏パンというのがあって予備があるのですが、そういう子が多いと無くなってしまふ。そういう時に予備食対応というのはさせてもらっていますが、基本的にお金がないと、登録がされていないとできないのですが、それで予備食をあてたことは無いのです。だから、予備食を使う場合はあくまでも、そういう子たちが食べられない時、それでも絶対食べるようにしますけれど、担任がスーパーに買いに行ったりしますけれどもそんな手間をかけないで、予備食対応で、ほとんどが忘れた子とか、注文を誤解していた子のために残しておく方が良くて、あまり予備食をあてにはするなということですよ。

(富田委員長) 課題3の大きな問題は、改善の余地があるとすれば、インターネットで注文するときの説明の方法ですが、あれより簡単にすることが考えられるのかどうか、難しい気もしますが、その辺くらいでしょうか。予備食は使いにくいだろうということですか。

(西山委員) 予備食を増やせばいいが、今度は逆にコストが高くなりますよね。

(富田委員長) 予備食の数を現状にとどめるのであれば、それをあてにするのは難しいだろうなということですね。

(西山委員) 緊急の時とか本当に予備ということですよ。

(宇佐見副委員長) 当日でも使えるよとなると予約しなくなってしまうよね。そもそもやっぱり意識の問題で、献立をもらったなら、もっと楽しいはずなのですよ。家庭の方でもしっかり献立を見て楽しんで給食を見られるようにした方がいいかなと思います。これらは注文しない人の理由ですよ。

(富田委員長) なるほど、楽しく注文できるように持っていく方がいいということですね。負のイメージ払しょくのところとも多少係わりながら、楽しく注文できる方法ですね。ありがとうございます。最後の課題に移らせてください。4番「メニューの内容・種類の工夫」についてですが、ここで何か、お考え、論点がありましたらお願いします。

(武田委員) 先ほどから、デリバリー給食は、大分改善されていて去年もここに書かれてとおり名古屋市で頂いた給食に比べて四日市のデリバリーはおいしかったですし、去年からメニューも好きなもの週間みたいなものも取り入れて、工夫をいただいているのですが、ただ、そのことが広まっていないというのが残念に思います。

(富田委員長) そうするとむしろ4番の具体的なメニューそのものよりは1～3の課題が大きな問題で、4の課題の足をひっぱっている可能性があるというお話だろうと思うのですが、他にいかがでしょう。課題4について、大きな論点が出てこないようでしたら、次回に向けての話を課題1～3に絞って検討を進めたらどうかと思うのですが、いかがですか。4のところでもさらに検討を進める必要があるという論点がありましたら、今の時点で教えてください。事務局の方はいかがですか。4は論点として残した方がいいですか。それとも課題1～3に論点を絞り込んでも問題はないですか。

(事務局) 問題ないです。

(富田委員長) 皆さんはいかがですか。

(西山委員) いろいろな意見がありまして、コストの面があるならば、選べることよりメニューは1種類にして、充実させてもらう方法もいいのではないかとか、校長会の方でいろいろ、昨年そういう意見もありました。ただ、AB両方が魚メニューの日は、喫食率は下がる。それを改善していただいて、魚と肉の日もあるというふうになって、変わってきている。非常にメニューの工夫、努力は感じてはいる。ただ全体を見たときにコストとかを考えた時に、選べる良さはもちろんあるのですが、そのためにコストが嵩むのであれば、そこにかかるコストを1種類にして・・・という意見もある。今は中学校長会としての意見としてまとめてないので、今度意見をもらうときは、そういう意見を引き上げて報告をします。全体を見た時のコストとかパフォーマンスを見た時にそういう方法もあるのではないかとこの事です。

(富田委員長) わかりました。そうしましたら、あえて課題4を削ることはせずに、課題1～4まで議論を進めていくことにしますが、当委員会で課題1～3のところに論点が集まっています。改めて課題4について、意見、論点はありますか。今出てきたのは、コストカットの意味も含めてメニューを1種類にする可能性はあるのかどうか、そうしたらどうかという意見があるというお話でした。事務局に聞きますが、現実問題として、メニュー1種類にするのは可能なのですか。

(井原) 実は昨年度、このご意見もありまして、1週間ぐらい人気メニューを寄せた形でメニューを1種類にして実施したのですが、実際は、喫食率はそれほど高かったかというところでもなく、PRの話もあるのですが、アレルギー対応もありますので、1種類にするとその中に何か食べられないものがあると、注文できないといったこともありまして、それもどうかというところがありました。スケールメリットも、実際は全生徒が食べるくらいにならないとそれ程、質の向上には繋がらないという結論です。

(富田委員長) できない話ではないけれども、今までの経緯、いろいろな試みから判断すると、1つはアレルギー対応の問題、それから、スケールメリットの効果がどのくらい大きくなれば効果がでてくるのかというと、わずかな数では、あまりメリットも出てこないだろうとそういった問題があるというお話ですね。さっきの校長会のお話ですが、コストカット、スケールメリット等の話ですが、ある程度、規模が大きくなれば安くなっていくだろうということが出ていたのですか。

(小林誠委員) この議論はずっと校長会でも出ている。少しでも、1メニューにして、コストカットして、良い材料といいますかね、質のいいものを提供するというのを上手にP

Rすればという意見としてはあります。アレルギー対応のことはもちろんですので、それを抜きにはできないと思いながら、他のおかずは全部共通ですよ、主菜だけが違うだけで、他はみんな一緒にその辺は大丈夫なのかなと思いながら、それができるのならできるのかなと、その辺が気になります。

(富田委員長) なるほど。課題4のところの論点ですが、一端、特段これは、まとまってこの論点というのを出すことはせずに、それぞれの組織の方に1度持ちかえっていただいて、この辺のところでは何かご意見があったら、またこちらに持ってきていただくことにしようかと思えます。全体を整理させてください。1番のデリバリー給食の負のイメージの問題のところではいくつか論点があったと思いますが、試食をどうするのかという問題ですとかいろいろあったと思いますが、これを事務局の方で論点を整理していただいて、この論点について、それぞれ一端持ち帰りいただいて、それぞれの論点についてそれぞれの所属の組織の方から意見を徴収して頂いて、それをお出しいただいてそれも改めて事務局で整理していただいて、次回の提案というのか報告をしていただこうかと思うのですが、事務局、そんな恰好でよろしいですか。

(事務局) 確かに承りました。

(富田委員長) 委員の皆さんもそれでよろしいですか。今、論点整理しようかと思ったのですが、それぞれにいくつか論点がありますので、改めて紙にして整理していただいたものをお送りいただいてそれをそれぞれの箇所でご検討いただいた上、事務局の方にお返事いただいて、それをもとに次回のまとめに結び付けていきたいと思うのですが、そんな進め方でよろしいでしょうか。私自身もどんなふうにもとめていいのか迷っているところですが、次回、いったんまとめをしなければいけない、そのまとめに向けての論題をお願いしたいというふうに思えます。それぞれのご所属のところ、課題を持ち寄りいただくものについては、それ以外のものについては、あるいは、お書き頂いたものの中で、今回の論点、課題の中で整理しきれないものについては、今までのご発言の中でも、すでに何回かお願いしている通り、8月以降、中長期的に考えていくことになるだろうと、これはまたこれで、いろんな話が出てくると思うのですが、そちらの方にとりあえず、言葉は悪いのですが、先送りさせていただこうかと思えますが、そんな恰好でよろしいでしょうか。事務局で何か補足があればお願いします。

(事務局) 特になし

(富田委員長) それでは、議事については、本日はこれで終わりにしたいと思います。それでは事項書6、事務連絡を事務局からお願いします。

(坂下) 先ほど委員長からお話があった通り、今回の論点を整理したものを事前に送らせていただいて、またお返事いただくような形をとりたいと思います。どうぞ、ご協力ください。よろしくお願いいたします。第2回中学校給食検討会は7月末から8月上旬の実施を予定しております。日程調整の用紙を机の上に置かせていただきましたので、本日置いていただける方はお願いします。持って帰っていただく方は、5月29日(金)までに、大分日が迫っており申し訳ありませんが、FAX等で送付していただくか、お電話で連絡いただいても結構です。よろしくお願いいたします。